令和元年度第2回外部評価委員会での主な意見

令和元年10月1日(火)13:30~15:00

市役所4階大会議室

議事

1. 前期事業実施計画の成果について

- ・資料に沿って事務局から説明

〈前期事業実施計画に位置付けた事業の振り返り〉

- ・全177事業のうち、数字で達成率を表せない事業があるが、どの指標で効果を測るのか。
- ・福祉分野は達成率が必要なのか。
- ・福祉分野では、福祉サービスを受けている市民の満足度を指標に設定することが良いと思う。
- ・文化会館の改修が遅れており、来年度利用の目処が立っていない状況。東美濃ふれあいセンターは公共交通機関による移動手段が無いので、代替施設にはならない。すべてを市内にある付知アートピアへ代替もできず、恵那市文化センターの改修時期も重なっているので利用ができない。魅力ある施設運営を計画に記載してあるが、改修の都合で目標を阻害していると思う。
- ・市内各地域それぞれに特徴があるので、地域に応じた事業展開を進めてほしい。すべてを一律で考えるのは難しいので、計画にも地域の特徴を反映させてほしい。
- ・計画を策定する上で、例えば建物を建てるのが目的でなく、市民にどういうニーズがあるかを調査し、目的の深堀や適切な目標値の設定をしてほしい。また移住定住分野では、補助金だけでなく、住みたいと思える街づくりの明確な方針を示し、発信をしてほしい。
- ・外部評価がスタートしてから、各事業のPRをお願いしたことで、市民に事業の内容がよく伝わるようになってきたと思う。
- ・広報誌など目にするると以前より見やすくなった。
- ・これからの世代のことを思うと、保育園・幼稚園の適正化がこども園の整備事業になっているが、本当に今の親世代のためになっているのか。他に応援すべき内容があるような気がする。
- ・横断的な行政運営を今後、更に意識してほしい。移住定住分野で、若者の流出について、付知まちづくり協議会主体で地元中学生との交流、意見交換に取り組んでいる。各地区単位の活動で終わるのではなく、本庁と各総合事務所の連携を密にして、各地区の取り組みを共有してほしい。
- ・区長単位で交流や情報交換の機会があると刺激があって良いと思う。蛭川地区で若い世代が活動していることも耳にするので、それが市内で共有する

ことができると良い。

- 移住定住分野で若者の流出を抑制する動きもいいが、地元を出て活躍する人材も多くいる。先日開催された中津川ソーラー武道館でも地元出身者が活躍しているが、市民には知られていない。そういった人材とのつながりがないことがもったいないと思う。地元出身者の中には地元貢献の思いを持った人もいるので、具体的な提案をしていけると良い。まず地元を出て活躍する人の情報を発信し、地元の価値を向上させるような動きをしてほしい。
- 自然環境の会議に出席すると、他の自治体では森林アカデミーとの連携の取り組みを進めていたので、中津川市でもその働きかけができると良い。行政担当者の熱意が見えてくると、市民も協働しやすくなる。担当者が異動しても事業が途切れないような仕組みにしてほしい。